

人事行政の運営等の状況



市職員の給与や職員数、勤務条件などの人事行政の運営等の状況についてお知らせします。

市では、効率的な行政運営・職員体制を構築するために、給与水準の適正化や定員の適正化に取り組んでいます。

問い合わせ 職員課(☎402226)

職員の任免および職員数に関する状況

採用の状況(令和元年度)

区分	行政職				計
	事務	土木	機械	医療職	
採用者数	13人	2人	1人	4人	20人

退職の状況(令和元年度)

区分	定年退職	応募認定退職	普通退職	分限免職	懲戒免職	計
退職者数	19人	2人	7人	0人	0人	28人

昇降任の状況(令和元年度・行政職)

区分	部長職	副部長職	参事職	課長職	課長補佐職	係長職	計
昇任者数	4人	0人	3人	10人	22人	16人	55人
降任者数	0人	0人	0人	0人	0人	1人	1人

(参考) 再任用職員数の状況

平成30年	令和元年	令和2年
24人	24人	32人

部門別職員数の状況(令和2年4月1日現在)

区分	職員数			前年比増減数	
	平成30年	令和元年	令和2年	令和元年	令和2年
一般行政部門					
議会	6人	6人	6人	0人	0人
総務企画	102	101	107	-1	6
税務	32	31	31	-1	0
労働	1	1	1	0	0
農林水産	22	22	22	0	0
商工	17	18	17	1	-1
土木	47	48	47	1	-1
民生	61	67	67	6	0
衛生	38	37	39	-1	2
小計	326	331	337	5	6
特別行政部門					
教育	77	73	64	-4	-9
普通会計	403	404	401	1	-3
公営企業等会計部門					
病院	91	102	95	11	-7
水道	25	24	22	-1	-2
下水道	7	7	7	0	0
その他	58	51	54	-7	3
小計	181	184	178	3	-6
合計	584	588	579	4	-9

※職員数は一般職に属する職員数であり、地方公務員の身分を有する休職者、派遣職員などを含み、再任用職員、非常勤職員を除きます

優良工事施工業者表彰



10月13日、令和2年度の藤岡市優良工事施工業者表彰式が行われました。

この制度は、市発注の公共建設工事の施工において履行状況・施工技術が優秀な受注者および技術者を表彰するもので、新井市長から表彰状が授与されました。

被表彰者 ▷優良建設業者表彰=(株)長谷川建設・藤栄建設(株)・(株)塚本工務店・(株)宇佐見商会・(有)中日建設エンジニアリング・(有)石川設備・塚越土建(株)・岩井電気工事(株)

▷特別表彰=(株)長谷川建設・(株)塚本工務店
▷優良施工管理功労賞=設楽明伸(塚本建設(株))・森公夫(株)宇佐見商会・嶋方一寿(高橋建材(株))・藤巻謙一(塚本建設(株))・大野圭一(株)長谷川建設・長坂一夫(藤栄建設(株))・三友 弘(藤栄建設(株)) ※敬称略

問い合わせ 契約検査課(☎402223)

運転免許証自主返納者は奥多野線の運賃が半額になります

運転免許証を自主的に返納した人への支援として、多野藤岡地域代替バス「奥多野線」の降車時(運賃支払時)に、運転経歴証明書(提示する)と、運賃が半額となります。

納し、「運転経歴証明書」の交付を受けた人
その他 期限・回数・年齢制限はありません。また、他の割引制度との併用はできません

対象 藤岡市・神流町・上野村・高崎市新町のいずれかに在住で、運転免許証を自主返

問い合わせ 多野藤岡広域市町村圏振興整備組合(☎241621)



宮崎 正之さん

10月1日付で宮崎正之さん(再任・藤岡)、品川久さん(再任・牛田)が、法務大臣



品川 久さん

から人権擁護委員に委嘱されました。人権擁護委員の任期は3年で、人権相談を受けた人権の考えを広めたりする活動をしています。

人権に関する相談を受け付けます

セクハラやパワハラ、家庭内暴力、学校や職場での体罰やいじめ、インターネットでの誹謗中傷、差別など、「自分の悩みは人権侵害かも」と思ったら、1人で悩まず気軽に相談してください。
相談は無料で秘密は厳守されます。
相談日・会場 ▽市役所市民相談室Ⅱ 毎月第2・4金曜日
▽鬼石公民館Ⅱ 4・7・9・12月の第3木曜日
時間 午後1時～3時
問い合わせ 地域づくり課(☎402211)



「区長・区長代理と市長のまちづくり懇談会」開催中

地区ごとに開催中の懇談会では、ゴミ出し・側溝清掃など生活に直結する問題、道路整備・都市計画、災害対応などについて、地域の声を届けていただいています。しっかりとご意見をお受けするとともに、市の事業推進へのご協力をお願いする機会としています。

日本中で半世紀前に整備されたインフラが転換期を迎えています。人口動態にも即した、令和時代の社会を構築しなければなりません。10年、20年先も明るく元氣な藤岡を目指すとき、地域コミュニティの絆こそが最大の原動力です。この力のさらなる活性化に向けて、現在、各地域団体を結んでいく新しい体制づくりを進めています。皆さんもご近所の活動に積極的に飛び込んでみませんか。郷土を愛して、大きく育むために力を合わせましょう！